平成２７年度新入生
「薬物に関する意識調査」結果報告（要約）

平成２７年１０～１２月

公立大学法人　県立広島大学

【調査概要】

１　調査対象：平成２７年度学部１年生及び昨年度未受講者等

２　実 施 日：平成２８年度１０月～１２月「薬物乱用防止講習会」において

３　調査方法：紙媒体

４　回答数（率）：４０３名（６５．７％）

【集計結果】

１　薬物に関する関心

質問２　あなたは，薬物問題について関心がありますか。

□非常に関心がある　□ある程度関心がある　□どちらともいえない　□あまり関心がない
□ほとんど関心がない

昨年度と比較して，「非常に関心がある」・「ある程度関心がある」と答えた学生が減少し（38.0%（昨年 48.3%)），「あまり関心がない」・「ほとんど関心がない」と答えた学生が増加した（31.5%（昨年 28.8%)）。

２　薬物に関する知識

質問３　あなたは，次の薬物の名前を知っていますか。

□覚せい剤（ｽﾋﾟｰﾄﾞ，ｴｽなど）　□大麻（ﾏﾘﾌｧﾅ，ﾊｯｼｯｼｭなど）　□シンナーなどの有機溶剤
□麻薬　□コカイン　□あへん類（ﾍﾛｲﾝなど）　□ＬＳＤ　□MDMA（ｴｸｽﾀｼｰなど）
□マジックマッシュルーム　□「危険ドラッグ」（「違法ドラッグ」「脱法ドラッグ」「違法ハーブ」「脱法ハーブ」「合法ハーブ」）などと称しているもの　□知っているものはない

「覚せい剤」「大麻」「シンナー」「麻薬」「コカイン」はほとんどの学生が知っていると回答している。昨年度と同様の傾向であるが，「LSD（15.1%（昨年 18.9%))」「MDMA（79.9%（昨年 85.9%))」と「マジックマッシュルーム（61.8%（昨年 65.9%))」の認知度は若干低くなっている。

質問４　あなたは，そうした薬物の名前をどのようにして知りましたか。

□学校の授業　□友達・仲間・先輩・後輩　□家族　□ポスター・パンフレット
□本・雑誌　□新聞　□テレビ　□ラジオ　□ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・ＳＮＳ　□携帯電話・スマートフォン
□映画　□その他

昨年度と同様，「学校の授業」と回答した学生が約９割と圧倒的多数を占め，高校までの意識啓発授業が浸透していることがうかがえる。次いで「テレビ」が約７割となっている。「ポスター等」も３割の学生が認識している。一方で，「本・雑誌」「新聞」「インターネット等」が昨年度と比較して認識度が低下している。

質問５　あなたは，薬物についてどのような印象を持っていますか。

□かっこいい　□気持ち良くなれる気がする　□やせるのに効果がある
□眠気覚ましに効果がある　□１回使うくらいであれば心や体への害はない
□心や体に害がある　□使ったり，持っていたりするのは悪いことだ　□犯罪に巻き込まれる
□１回でも使うと止められなくなる　□特にない

７～８割の学生が，「１回でも使うと止められなくなる」「心や体に害がある」「犯罪に巻き込まれる」「使ったり，持っていたりするのは悪いことだ」と回答している。（昨年度より若干増加）
一方で，依然として「気持ち良くなれる気がする」と回答した学生が 4.7%（昨年度 9.3%）おり，薬物の危険性等について，継続的に意識啓発等を行う必要がある。

質問６　あなたは，薬物を使ったり，持っていたりした場合，どうなると思いますか。

□使ったり，持っていたりしたらすべて罰せられる
□１回使うくらいなら，罰せられることはない　□持っているだけでは罰せられることはない
□使ったり，持っていたりしても罰せられることはない　□わからない

９割を超える学生が，「使ったり，持っていたりしたらすべて罰せられる」と回答している。

質問７　あなたは，薬物を使った場合，心や体に次のような害があることを知っていますか。

□１回使っただけでも，異常に興奮したり，やる気がなくなったりする（急性中毒）
□１回使っただけでも，死亡することがある（急性中毒死）
□自分の意思で止めるのが難しくなる（依存症（精神依存，身体依存））
□薬が切れると，体を動かすことがいやになったり，疲れを感じたり，苦しくなったりする（禁断症状や退薬症状）
□使い続けると，体の様々なところに病気が起こりやすい（慢性中毒）□使い続けると，脳の神経がおかされ，見えないものが見えたり聴こえないものが聴こえたりすることがある（幻覚や妄想など薬物精神病）
□使い続けるのを止めても，何かのショックで見えないものが見えたり聴こえないものが聴こえたりすることがある（フラッシュバック）

昨年度と同様，約８～９割の学生が「急性中毒」「依存症」「禁断症状」「薬物精神病」「フラッシュバック」などの心と体に害があることについて理解している。

質問８　あなたは，そのような害をどこで知りましたか。

□学校の授業　□友達・仲間・先輩・後輩　□家族　□ポスター・パンフレット
□本・雑誌　□新聞　□テレビ　□ラジオ　□ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・ＳＮＳ　□携帯電話・スマートフォン
□映画　□その他

昨年度と同様，「学校の授業」と回答した学生が約９割と圧倒的多数を占め，次いで「テレビ」が約６割となっている。また，「本・雑誌（7.7%（昨年 11.3%））」「新聞（9.7%（昨年 11.7%））」での認知度が低下している。

質問９　あなたは，若者の間で薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思いますか。

□薬物が簡単に手に入るようになっている
□本や雑誌等に薬物を使ってみたいと思わせるような情報が載っている
□インターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報が載っている
□社会のルールを守ろうとする意識が薄れている
□薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない
□簡単にやせられるとか，１回使っただけでは心や体に害がないなど，薬物を使うことの怖さ（有害性・危険性）についての誤った情報が多い
□薬物の害について学ぶことが少ない　□友達，仲間，先輩，後輩にすすめられる
□学校や家庭がおもしろくない　□わからない　□その他

昨年度と同様，「薬物が簡単に手に入るようになっている」と回答した学生が約８割と最も多く，次いで「簡単にやせられるとか，１回使っただけなら害がないなど，薬物の怖さについての誤った情報が多い」「友達，仲間，先輩，後輩にすすめられる」が約５割となっている。

質問１０　あなたは，薬物を使うことについてどのように考えていますか。

□どのような理由であれ，絶対に使うべきではないし，許されることではない
□１回くらいなら心や体への害がないので，使っても構わない
□他人に迷惑をかけていないので，使うかどうかは個人の自由である
□その他

「どのような理由であれ，絶対に使うべきではないし，許されることではない」と回答する学生が若干増加（96.3%（昨年 95.2%））しているものの，「他人に迷惑をかけないのであれば，使うかどうかは個人の自由である」と回答した学生も僅かながら存在することから，学生の規範意識の醸成に引き続き努めていく必要がある。

質問１１　あなたは，薬物を使用することや購入することを誘われたり，勧められたりしたことが，これまでにありましたか。

□誘われたり，勧められたことはない　□購入を勧められたことがある
□使用を誘われたことがある　□わからない

「誘われたり，勧められたりしたことはない」と回答する学生が 96.5%（昨年 95.0%）いるものの，僅かではあるが，購入を勧められたり，使用を誘われたりした学生が存在する（0.4%（昨年 0.8%））ことから，薬物の危険性等について，引き続き規範意識の醸成を図る必要がある。

質問１２　あなたは，薬物を使用することを誰かに誘われたら，どのように行動しますか。

□誘った相手が誰であろうと，断る　□誘った相手によっては，断りきれないかもしれない
□１回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない
□好奇心や面白半分から断らないかもしれない
□悩み事があったり，疲れたりしていたら断らないかもしれない
□わからない　□その他

昨年度と同様，９割強の学生が「誘った相手が誰であろうと，断る」と回答しているものの，「誘った相手によっては，断りきれないかもしれない」と回答したものが６％いることから，薬物の危険性等について引き続き意識啓発に努める必要がある。

質問１３　あなたは，もし友人が薬物を使用していることを知った場合，どうしますか。

□使用をやめるよう説得する　□他の人（先生や友人など）に伝える
□警察や保健所などに通報する　□個人の自由であるので放っておく　□わからない
□その他

「使用をやめるよう説得する」と回答した学生が昨年度よりも増加（60.3%（昨年 52.3%））し，「他の人に伝える」（14.1%（昨年 13.5%））「警察や保健所などに通報する」（10.7%（昨年 8.9%））とあわせると８割強の学生が解決策をとると回答した。

質問１４　あなたは，薬物を手に入れようとした場合，それはどの程度むずかしいと考えていますか。

□絶対不可能だ　□ほとんど不可能だ　□少々苦労するが，なんとか手に入る
□簡単に手に入る　□わからない

「少々苦労するが，なんとか手に入る」「簡単に手に入る」と回答した学生の合計が昨年度より若干減少（61.8%（昨年 66.2%））したものの，容易に入手できると考えている者が依然として６割いることから，学生が薬物を入手しないよう十分意識啓発する必要がある。

質問１５　あなたが，手に入ると考える理由はどのようなことですか。

□報道等で薬物に関する事件が増加しており，簡単に入手できると感じるから
□入手する方法は知らないが，簡単に手に入ると聞いたことがあるから
□インターネットなどで販売されているのを見かけたことがあるから
□入手する方法を知っているから　□その他

昨年度と同様，「報道等で薬物に関する事件が増加しており，簡単に入手できると感じるから」と回答した学生が約５割で，次いで「入手する方法は知らないが，簡単に手に入ると聞いたことがあるから」が約４割となっている。